

特集 エコロジーと女性

ヤマモモの実が熟れて

竹中 則夫

今日は、ここ真玉町（大分県西国東郡）の現地から近況を報告いたします。今、私が進めている計画は漸くその一步を地に下ろそうとしていますが、造成工事の始まる前なので、辺りはまだ夏草の茂るにまかせ、雑木山には老鶯の啼く声が響き渡っています。この辺りはもともと蜜柑畑として拓かれたところで、その後の農業事情の変遷とともに、一人また一人と畑を放棄してゆき、椎茸の櫛木となるクヌギ林に変わったところや、雑木林に還ったところもあり、まさに人間の気紛れに付き合ってきた「里山」の歴史を目の当たりにできます。

今回の私の計画もこの荒廃した里山の再生としての側面を持ち、その可能性を探る試みに地元の方々の協力をお願いしているところです。現地は小高い丘陵の一角で、麓には温泉もある古くからの農村地帯です。人々の暮らしには農耕文化の蓄積が随所に見られ、集落の年長者にお聞きする昔話には学ぶことが沢山あります。温暖な気候が豊かな作物の実りをもたらし、その準備と収穫が暮らしの基盤となって農家の一年が自然のリズムと調和しています。ここに一つの集落を作り都市部に住む人々に滞在してもらって地元の方々との交流を図る。これも計画の別の一面で、その交流の場所となるのが宿泊ロッジとその周囲に点在する畑、即ち、国東型クライン・ガルテンです。

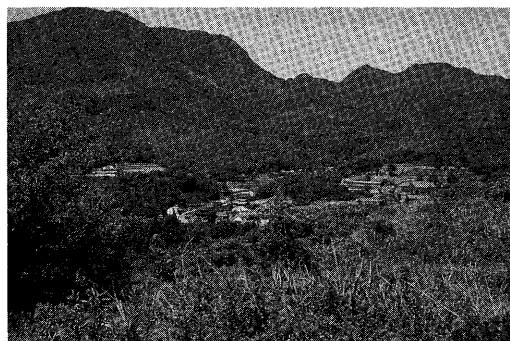
この畑は生産性を目指す専業農家の畑とは違って、ロッジの滞在者に農耕を通して日本の田舎を実感してもらうためのフィールドです。自分で育てた米や野菜を新鮮な内に「食」として体内に取り込む、これが田舎で暮らすことの基本です。畑に行ってキュウリやカボチャを採り少し手を加えて食卓に出す。その新鮮さと単純さが農耕の楽しさにつながり、一年間（四季）のロッジ滞在を意味あるものにすると考えています。

この岡田山の自然とはまた違った風景の中に身をおいて、「エコロジーと女性」について少し考えてみました。私は、楽しさを発見するのに男も女もないと思

います。ロッジが建つ場所から山径を歩いてゆくと、辺りの樹々や鳥が話しかけてくるのは「私」であって、彼らには「私」が男であるか女であるかは無意味な区別なのです。自然界ではヒトはヒトであって、その属性たる「男性」も「女性」も種の保存を目的として初めて機能するものです。しかしながら、ヒトが集まって社会を作るとやがて文化が発達し、そこでは属性の方が意味を持つてくるようになります。属性が役割としてその重みを増すにつれて生きることの単純さが失われてゆき、根本であるヒトとしての生命エネルギーが枯渇してくるよう思われます。エコロジカルに「女性」とは何かと問えば、このヒトとしては重すぎる時もある属性であるという答えが返ってきます。「女性」を論じる前にヒトとは何かを自問自答する、自然の中で考える、それがエコロジーの立場で、答えが出たときにはまた多様な「女性」学と「男性」学の可能性が見えてくると思います。

さて、ヤマモモの樹があるところに来ましたが、沢山の実が熟れていて良い匂いがします。昔、この実が子供達のおやつだった頃、彼らの「遊び」は単純で、真剣で、命に溢れていたものです。考えてみれば、私がこの計画を思いついたのも、子供時代に駆け回った野山が遊びに帰ってこいと呼んだのかも知れません。故郷の自然は開発の波にのみ込まれて往時の姿を失いましたが、ここ、真玉町は私をもう一度真剣に遊んでみようという気にさせる所です。これも計画の意図することの一つで、自然の懐で遊びつつ学ぶ、「人」とは何かを知らず知らずに会得する、国東型クライン・ガルテンはそのような場所にしてゆきたいと思っています。

（人間科学科非常勤講師）



クライン・ガルテン建設予定地から麓の集落を望む

「やぎの会」ってなに？

山田 真紀子

「やぎの会って、いったい何やってるの？」とよく聞かれます。女学院の人にも、やぎの会の活動は意外と知られていないようです。そこで、やぎの会について、おおまかに紹介したいと思います。

「やぎの会」は、身近なところから環境問題を考えよう、と学生有志が集まり、1992年2月に発足しました。発足から5年余りたち、活動の幅も次第に広がってきています。

現在のやぎの会の主な活動として、牛乳パック、古紙の回収があります。ロッカー室の回収箱に皆さんから集められた牛乳パックは、「みんなの労働文化センター」(尼崎市)から輝祥製紙株式会社(愛媛県川之江市)に引き渡され、そこで「ぱっくル」というティッシュペーパーに生まれ変わります。また、古紙は回収業者を経て再生紙としてリサイクルされます。この回収活動は、学内で毎日大量にできる紙ゴミを何とか利用できないだろうかということから始まりました。今では、皆さんの協力のおかげで、回収箱はあつという間に一杯になっています。また、「回収活動だけでは本当のリサイクル活動にはならない」と考え、このリサイクルティッシュ「ぱっくル」をはじめ、レターセットなどの再生紙商品をバザーや学祭で紹介・販売してきました。単に集めるだけではなく、リサイクル商品を広めることにも関わろうという試みです。

そのほか、女学院の先生を交えて、環境についての勉強会を開いたり、ミニ機関紙「やぎ通信」を発行したり、学祭で、リース作りや紙すき体験のコーナーを設けたりしています。最近では、他大学のサークルが行っている自然観察にも参加し、自然に対する見識を深めています。

現在は、主にこのような活動をしています。これからも新しいものをどんどん取り入れて、より充実した楽しい会にしていきたいと思っています。面白そうだなと思った人、何か新しいことをやってみたいと思ってる方は、是非やぎの会をのぞきにきてください。いつでも歓迎します！(やぎの会の部屋ができました。社交館205です。)

《回収に関して、やぎの会からのお願い》

〈牛乳パックの場合〉

- 中を洗って、乾かして、切り開いてから持って来ててください。

- 500cc、1,000cc以外のパックは回収箱へ入れないでください。
- 内側が銀色のパックは、特殊加工のため再利用できないので入れないでください。
- 持ってきたときの輪ゴム、袋などは取っておいてください。

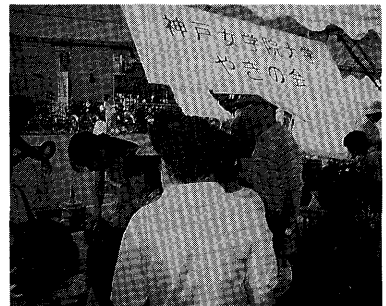
〈古紙の場合〉

- ホッチキス・セロテープ・クリップなどは必ずしてから入れてください。
- 色のついた紙、表面に光沢のある紙(グラビア、ポスター等)は入れないでください。
- 書籍・ダンボール等は回収ルートの関係で扱っていないので、回収箱には入れないでください。

最近、牛乳パック・古紙回収箱の中に、ゴミが入っています。回収箱はゴミ箱ではないので、注意してください。気持ち良く回収作業ができるように、皆さんのご協力をお願いします。(人間科学科3年生)

「やぎの会」活動記録より(1996年)

- 1月10日 第1回討論会：「今、環境問題は？」
講師 川合真一郎先生(人間科学科)
- 5月25日 愛校バザー
★ぱっくル(リサイクルティッシュ)、ユニセフ・カード販売
- 5月30日 第2回討論会：「現代の農業事情」
講師 竹中則夫先生(人間科学科)
- 8月10日 第22回にしのみや市民祭り「はつらつノカレッジ村」(西宮スタジアム)に参加
★紙すき体験コーナー



- 11月4・5日 大学祭
★リース作りコーナー ★ビデオ上映
★ぱっくル(リサイクルティッシュ)、ユニセフ・カード販売
その他、紙パック・古紙回収、「やぎ通信」の発行

『女と男』

三 杉 圭 子

毎年春先になるとアメリカでは映画界最大のイベント、アカデミー賞の発表があり、賞の選考基準には時々懐疑的な私も、授賞式のテレビ中継には必ず釘付けになってしまいます。今年のアカデミー賞をいわゆる総なめにしたのは『イングリッシュ・ペイシャント』でしたが、原作とは違って映画では、美しい人妻とその愛人というあまりにも古典的な男女の三角関係を軸にしていたのには思わず苦笑してしまいました。私的独断による今年の「アタリ」は主演女優賞、オリジナル脚本賞を受けた『ファーゴ』でした。

そこで『ファーゴ』の面白味はどこにあるかというと、まず主人公が非常に有能な女性警察署長だという設定です。女性を主人公にした探偵ものには映画化もされたサラ・パレツキー作、シカゴを舞台に派手なアクションを披露する美人でタフなパワー・フェミニストのアイドル、VIウォーシャウス

キー・シリーズがあります。しかし、『ファーゴ』の脚本家兼監督のコーエン兄弟は、フランシス・マクドーマンド演じるヒロイン、マージを、一見どこにでもいそうなアメリカの片田舎の平凡な女性、しかも妊婦として設定しているのです。そして産む性であることを抱えた彼女がごくごく自然に職務をこなし、誘拐殺人事件を解決してゆく過程をある種淡々と、時にはヒューモアを交えて描き出しています。さらに彼女の男性部下達、そして彼女をサポートする夫も全くの自然態なのです。同時にこの調和の反対側には常に男に抑圧されている男、事件の首謀者がいます。つまり、事件の発端は単に借金返済の為の奇策ではなく、彼が「男」として、家庭の長としての役割の奪回を狙ったことに起因しているのです。事件解決後、身重の妻をいたわる夫と、切手にデザイン画が採用された夫への信頼と誇りを確認する妻の姿がラストシーンとして描かれています。生物的性差を受けとめながらも、社会的性差に束縛されない人々を描いた点で、女と男について考えておられる方々にはお奨めの一作です。(英文学専任講師)

『女と男』

名誉男性(キャリア・ウーマン)と二等市民(主夫)という関係

土 佐 弘 之

「性的同一性障害」という言葉が最近よく出てくる。これは一見ニュートラルな響きを持っているようだが、女／男の単純な二項対立の思考に対する挑戦的な動きを予め「病気」というラベルを貼って、ジェンダーに関する意味秩序を回復しようという保守主義的な企みであるような気がする。とは言いながら、私自身は女／男といった二項対立の見方に対して依然として強く囚われている。日常生活の中で、この二項対立を徹底的に脱構築するなんて、しんどすぎて凡人にはとても出来ないのが正直な所だ。

二項対立思考に囚われている私ではあるが、凡人なりに、「ジェンダーに関する意味世界の再編成過程」での苦悩を感じてきたし、今でも感じている。まず、家長制的価値観が無意識下にまで浸透している〈自分A〉と極めて有能なカミサン(妻)にこき使われている〈自分B〉との間で、一種のダブルバインド状況が生じている。例えば、家事を結構自分ではやっているつもりでいたら、カミサンから

「貴男は自分では結構やっているつもりでいるでしょうけれど、実際には全体の三割程度でしょう。それくらいで、やっているなんて威張らないで」なんて主旨のことを言われる。そこで「だって男で、このくらいやる奴はそんなには、いないだろう」と思わず喉から言葉がでかかったところで、これって卑怯な言い方だと思い、ぐっと堪えるが、一方で、既に内面化された家長制的価値体系が心の奥底で燻り続けている自分にも気づく。

カミサンが私よりも遙かに責任の重い仕事をして忙しいため、私は主夫の役割もたまには演じなければならぬが、家長制的文脈の中では、主夫とは「二等市民」である。例えば、お母さんばかりの、子供関係の会合に出席した時など、この上ない疎外感を感じる。「二等市民」として生きていくというのは、それはそれで結構しんどいことだ。一方のカミサンの方も、逆に家長制的文脈の中では、「一流大学」卒の医者という「名誉男性(名誉白人に因んで命名)」の役割を演じる羽目になっており、これまたしんどいようである。二等市民と名誉男性という関係は、家長制的価値観が変容する過程で生じる過渡的現象なのかもしれないが、当事者の苦勞はそれなりに大きい。(総合文化学科助教授)

1997年度前期活動報告

特別講演会 1997年5月9日(金)

「子育てと文庫活動のなかから見つけた私の生き方」

講師：岩田美津子氏

(てんやく絵本「ふれあい文庫」代表)

[出席者：87名]

ビデオ上映会 ①1997年5月14日(水)

②1997年5月16日(金)

「鏡のない家に光あふれ一斉藤百合の生涯」

(製作：日本)

[出席者：計30名]

講演会 1997年5月26日(月)

「エコロジーと女性」(No.1)

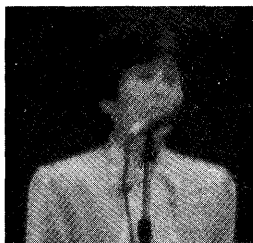
「有機塩素化合物がもたらしたもの」

ーレイチェル・カーソンからダイオキシンまで」

講師：福嶋実氏

(大阪市立環境科学研究所生活衛生課研究主任、本学非常勤講師：環境化学専攻)

[出席者：25名]



岩田美津子氏



福嶋実氏

講演会 1997年6月19日(木)

「エコロジーと女性」(No.2)

「母なる海と子なる魚達」

講師：中村泉氏

(京都大学農学部附属水産実験所助教授：魚類学専攻)

[出席者：35名]

ビデオ上映会 1997年6月23日(月)

「ナムムの家ーアジアで女性として生きるということ2」(製作：韓国)

[出席者：25名]

特別講演会 1997年7月9日(水)

「もうひとつの生き方」

ーもっと元気に生きるために」

講師：中西豊子氏

(ウイメンズブックストア松香堂代表)

[出席者：22名]



中村泉氏



中西豊子氏

図書・資料をご利用ください

女性学インスティテュートでは、女性学関係の図書・資料の閲覧・貸出を、下記の要領で行っています。

◎開室時間 月～金 8:30～16:30

但し、夏・冬期休業中の一定期間は閉室となります。

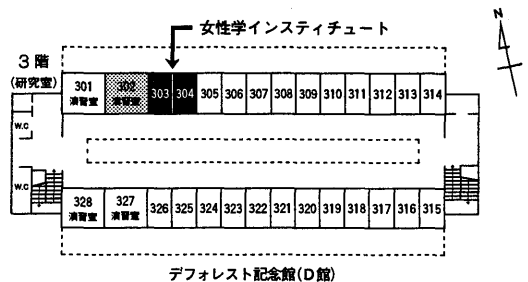
◎利用資格 本学教職員・学生・卒業生

◎閲覧 開室時間中は自由にご覧ください。

◎貸出期間 2週間

◎貸出冊数 8冊まで

◎検索方法 図書目録カードBOXを当インスティテュートおよび図書館新館1階に設置しています。また、当インスティテュートではコンピューター検索も可能です。



※1997年度後期より、303室の他、304室が専用となり、302室は共用となります。

※ 図書の閲覧・貸出希望者は、デフォレスト館 3階303・304号室(D-303・304)まで

1997年度女性学インスティテュート編集委員

別府恵子、風呂本悖子(委員長)、石川康宏、正木芳子、
孟真理(ABC順) 編集事務：豊福裕子

編集・発行：神戸女学院大学女性学インスティテュート

〒662 西宮市岡田山4-1 ☎(0798)51-8545